

令和7年度「全国学力・学習状況調査」の結果概要について

宇都宮市立豊郷中学校

家庭や地域から「信頼される学校」であるためには、学校の状況や生徒の実態を保護者や地域の方々に十分御理解いただく必要があります。その上で、家庭や地域と一体となって生徒を育てることが大切であると考えています。

こうした考えから、令和7年度「全国学力・学習状況調査」における本校生徒の学力や学習状況の概要について、以下のとおり公表します。

また、調査結果は、学習指導の工夫・改善に役立てることが大切ですので、調査結果の分析、指導の改善策などを併せて掲載します。

【調査の概要】

1 目的

義務教育の機会均等とその水準の維持向上の観点から、全国的な児童生徒の学力や学習状況を把握・分析し、教育施策の成果と課題を検証し、その改善を図るとともに、学校における児童生徒への教育指導の充実や学習状況等の改善等に役立てる。さらに、そのような取組を通じて、教育に関する継続的な検証改善サイクルを確立する。

2 調査期日

令和7年4月17日(木)

3 調査対象

小学校 第6学年(国語, 算数, 理科, 児童質問調査)

中学校 第3学年(国語, 数学, 理科, 生徒質問調査)

4 本校の参加状況

① 国語 179人

② 数学 179人

③ 理科 179人

5 留意事項

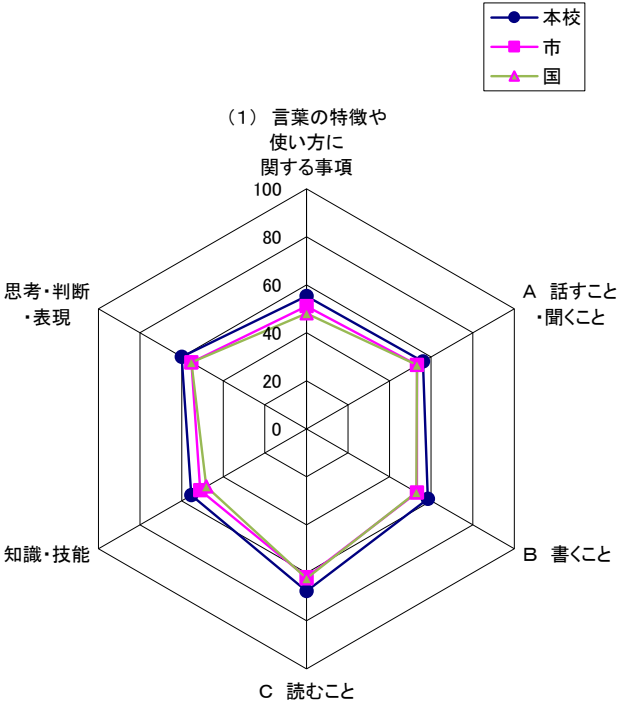
- (1) 本調査は、対象となる学年が限られており、実施教科が国語、数学、理科の3教科のみであることや、必ずしも学習指導要領全体を網羅するものでないことなどから、本調査の結果については、生徒が身に付けるべき学力の特定の一部であることに留意することが必要となる。
- (2) 本校の傾向等を分かりやすく示すために分類・区分別の平均正答率などを公表した。
- (3) 平均正答率の数値は調査結果のすべてを表すものではないため、「本年度の状況」、「今後の指導の重点」などの分析を併せて記載した。

宇都宮市立豊郷中学校第3学年【国語】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【国語】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域等	(1) 言葉の特徴や使い方にに関する事項	55.3	51.1	48.1
	(2) 情報の扱い方にに関する事項			
	(3) 我が国の言語文化に関する事項			
	A 話すこと・聞くこと	56.1	53.2	53.2
	B 書くこと	58.4	53.1	52.8
	C 読むこと	67.6	61.8	62.3
観点	知識・技能	55.3	51.1	48.1
	思考・判断・表現	60.0	55.3	55.3
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

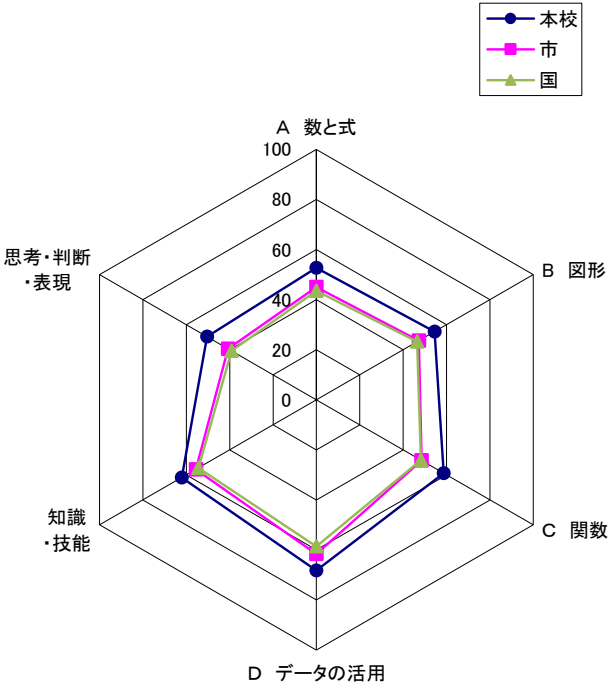
分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
(1) 言語の特徴や使い方にに関する事項	○正答率が全国平均を7.2ポイント上回っている。 ○正しい漢字、語句の適切な意味を選ぶ問題は両方とも理解しているかどうかの問題であるが、両方とも、全国平均を上回っている。特に語句の意味を選択する問題では、全国平均を9.9ポイント上回った。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・文法事項や漢字については、日々の授業の中で反復しているため、身に付いていると考えられるので、今後も反復学習を続けていきたい。 ・普段から読書量が多いのもあり、語彙力は高い傾向にある。引き続き、補助教材なども活用して、語彙力を高める指導を続けていきたい。
(2) 情報の扱い方にに関する事項		
(3) 我が国の言語文化に関する事項		
A 話すこと・聞くこと	○正答率が全国平均を2.9ポイント上回っている。 ●スライドを使ってどのように話しているのかを説明したものとして適切なものを選択する問題では全国も本校も誤答が多いが、本校は正答率が35.8%で全国平均を2.3ポイント下回っている。	・ペアでの話し合いやグループでの話し合いを行っている成果が見られるので今後も続けていきたい。 ・質問紙の回答からは、発表する活動に対して意欲的な姿勢が見られるものの、それが聞き手にとって分かりやすいかと工夫することまでに考えが至っていないものと考えられる。今後は振り返りを通して、自分の発表を客観的に見て評価する時間を設けていきたい。
B 書くこと	○正答率が全国平均を5.6ポイント上回っている。 ○全ての問題について、全国平均を上回っている。 ●手紙の下書きを見直し、誤って書かれている漢字を見つけて修正する問題では、全国の無解答率が33.5%に対して本校は22.3%であるが、無解答率が高いのは否めない。	・普段の授業の中で、ICT機器を使ったり、紙と鉛筆で書いたりする活動はよく行っているため、書く力は身に付いている。ただ、ICTを使えばすらすらと活動できるのに、紙に向かうと固まってしまう生徒は一定数いる。両方の活動で、書くことに対する苦手意識をなくしていく必要がある。
C 読むこと	○正答率が全国平均を5.3ポイント上回っている。 ○全ての問題について、全国平均を上回っている。 ●物語の始めに問かけが示されていることについて、その効果を説明したものとして適切なものを選択する問題では、特に正答率が全国平均を7.7ポイント上回っている。	・読書(特に物語文)が好きな生徒が多いこともあり、物語文の内容を読み取ることに意欲的な生徒も多い。今後も比較読みなどをしながら、内容批評ができるような読む指導の充実を図る。

宇都宮市立豊郷中学校第3学年【数学】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【数学】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	A 数と式	52.7	45.0	43.5
	B 図形	54.5	47.2	46.5
	C 関数	58.7	48.5	48.2
	D データの活用	68.2	61.6	58.6
観点	知識・技能	62.1	55.6	54.4
	思考・判断・表現	50.5	40.7	39.1
	主体的に学習に取り組む態度			



★指導の工夫と改善

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

分類・区分	本年度の状況	今後の指導の重点
A 数と式	○正答率が、全国平均・市平均よりもかなり上回っている。(全国平均から9.2ポイント、市平均から7.7ポイント) ●式の意味を読み取り、成り立つ事柄を見だし、数学的な表現を用いて説明する問題で全国平均を上回っているが差が少なく、正答率は31.3%であった。	・基本でない計算技能はある程度身につけている生徒が増えてきた。今後も基礎学力向上のため演習問題を繰り返し行い、定着させたい。 ・授業で学んだ基礎的なことを活用して説明する活動をこれまで以上に組み込んで、式の意味を理解させ、その式が何を表しているか説明することができる学力を身に付けさせたい。
B 図形	○正答率が、全国平均・市平均よりもかなり上回っている。(全国平均から8ポイント、市平均から7.3ポイント) ●図形の証明ができる一方、証明を振り返り、証明された事柄を基にして、新たに分かる辺や角についての関係を見いだす問題で、全国平均から下回っており、正答率は57.5%であった。	・図形に関する知識・技能については身につけている生徒が増えてきた。今後は、さらに筋道を立てて説明する力が不十分な生徒の学力を高めるために、問題が何を意味しているか捉えさせる活動や言語活動をより多く取り入れていく。 ・図形の問題を指導するときに、新たな性質を見つけ就て合う活動を取り入れることで図形から性質を見いだす学力を身に付けさせていきたい。
C 関数	○正答率が、全国平均・市平均よりもかなり上回っている。(全国平均から10.5ポイント、市平均から10.2ポイント) ●グラフから必要な情報を読み取る問題で、全国平均を上回っているが差が少なく、正答率は49.2%であった。	・表・グラフ・式との関連性を意識した授業を取り入れることにより、問題に合った解決方法を選んで問題を解くことができるようになってきている。 ・生徒たちが苦手意識をもっている応用問題では、実際の生活場面に関する問題を取り入れ、自分の言葉で説明し解決する力を付けるための活動を多く取り入れることで学力を向上させていきたい。
D データの活用	○正答率が、全国平均・市平均よりもかなり上回っている。(全国平均から11.4ポイント、市平均から9.6ポイント) ●相対度数を問う問題で、全国平均を上回っているが、正答率が59.8%であった。	・確率の意味、求め方についての基本的な知識・技能についてが身に付いてきているので続けて学力を向上させていきたい。 ・言葉の意味や、問題から何を求めればよいのか判断し、正しい方法で答えに導くことができるように反復練習の学習を続けていきたい。 ・実際の生活に即した問題からデータの傾向を比較し、データが何を表しているかグループで伝え合う活動を取り入れ、判断の理由を数学的な表現を用いて説明できる学力を身に付けさせたい。

宇都宮市立豊郷中学校第3学年【理科】分類・区分別正答率

★本年度の国、市と本校の状況

【理科】

分類	区分	本年度		
		本校	市	国
領域	「エネルギー」を柱とする領域	61.1	54.5	56.1
	「粒子」を柱とする領域	71.7	62.2	61.7
	「生命」を柱とする領域	52.9	46.5	44.8
	「地球」を柱とする領域	44.6	36.7	37.3
観点	知識・技能	73.7	67.0	66.8
	思考・判断・表現	47.6	38.3	38.8
	主体的に学習に取り組む態度			

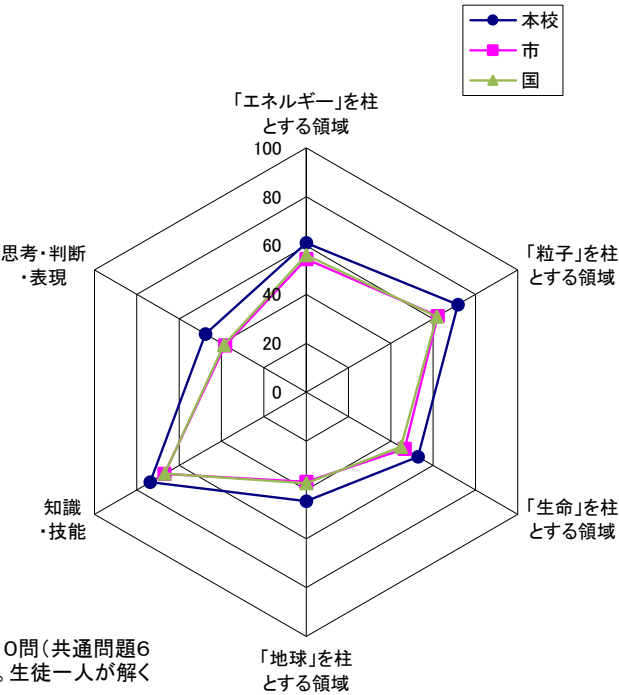
※中学理科の調査は、CBTで実施されている。

※CBTの調査では、生徒全員に同じ問題が出題されるのではなく、公開問題10問（共通問題6問、実施日により指定された問題4問）と、非公開問題が16問出題されている。生徒一人が解く問題数は26問である。

※公開問題22問（共通問題6問、実施日により異なる問題16問）の調査結果を集計した値であ

★指導の工夫と改善

分類・区分		本年度の状況	今後の指導の重点
「エネルギー」を柱とする領域		○正答率が市平均を6.6ポイント、全国平均を5.0ポイント上回っている。 ●平均は上回っているものの、電熱線を利用して水を温めるための電気回路について苦手とする生徒が多い。	○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの ・実験・観察の結果から考察する時間を十分に確保し、思考力を高める。 ・直列・並列回路における法則等、基礎・基本を定着させる。
「粒子」を柱とする領域		○正答率が市平均を9.5ポイント、全国平均を10.0ポイント上回っている。 ○元素記号の記述では、平均正答率69.8%と、市・全国の平均を大きく上回った。 ○水道水と精製水に関する発表をみて回答する問題で91.9%と非常に高い正答率であった。 ●デンプンの消化と同じ化学変化を選択する問題では、市・全国の平均を上回ったものの、58.7%であった。	・知識・理解の観点の正答率、思考・判断・表現の観点の正答率がともに市・全国の平均を上回っていることから、引き続き実験・観察の結果から考察する時間を十分に確保し、思考力を高める。 ・小テストで、基礎・基本の問題を反復して行い定着を図る。
「生命」を柱とする領域		○正答率が市平均を6.4ポイント、全国平均を8.1ポイント上回っている。 ●生物の動画を見て呼吸の仕方についての問いに対して、市・全国の平均は上回ったものの正答率が41.9%と低かった。 ●柔毛・肺胞。根毛に共通する構造等についての問いに対し、市・全国の平均は上回ったものの、正答率が41.3%と低かった。	・小テストで、基礎・基本の問題を反復して行い定着を図る。 ・既習内容と関連付けながら学習を進める。 ・生命の共通性や多様性を意識させながら授業を展開していく。
「地球」を柱とする領域		○正答率が市平均を7.9ポイント、全国平均を7.3ポイント上回っている。 ●それぞれの地層の性質から、水が染み出る場所を選択する問題では、県・全国の平均を上回ったものの38.0%と正答率が低かった。	・実験・観察の結果から考察する時間を十分に確保し、思考力を高める。 ・地層に関する知識および技能を関連付けて、分析・解釈ができるよう演習問題に取り組む。



宇都宮市立豊郷中学校 第3学年 生徒質問紙

★傾向と今後の指導上の工夫

○良好な状況が見られるもの ●課題が見られるもの

●「自分には、よいところがあると思いますか」の質問に対する本校の肯定割合は87.2%で、全国とほぼ同じであったが、県より0.8ポイント下回った。しかし、その後の「先生は、あなたのよいところを認めてくれていると思いますか」の質問の肯定割合は95%と、県より0.7ポイント、全国より2.8ポイント上回った。今後も、自己肯定感を上げるための声かけや活動の工夫を行っていく。

○「人が困っているときは、進んで助けていますか」の質問に対する本校の肯定割合は95%で、県より2ポイント、全国より4.1ポイント上回った。

●「困りごとや不安がある時に、先生や学校にいる大人にいつでも相談できますか」の質問に対しての本校の肯定割合は69.3%で、県より6ポイント、全国より3.9ポイント下回った。しかし、以下の3つの質問に対しての肯定割合が高く、また普段の生活の様子から、あまり不安に感じる瞬間がないのかもしれないとも考えられる。それでもいつでも相談できる雰囲気作りを引き続き行っていく。

○「学校に行くのは楽しいと思いますか」の質問に対しての質問に対しての本校の肯定割合は92.7%と高く、県より5.5ポイント、全国より6.6ポイント上回った。

○「友人関係に満足していますか」の質問に対しての本校の肯定割合は94.4%と高く、県より2.5ポイント、全国より3ポイント上回った。

○「普段の生活の中で、幸せな気持ちになることはどれくらいありますか」質問に対しての本校の肯定割合は93.9%と高く、県より1.4ポイント、全国より2.5ポイント上回った。

○「学校の授業時間以外に普段（月曜日から金曜日）、1日あたりどれくらいの時間、勉強をしますか」の質問に対して、2時間以上と答えた生徒は41.4%と、県より11.9ポイント、全国より10.6ポイント上回った。

○「読書は好きですか」の質問に対しての本校の肯定割合は74.8%と、県より9.9ポイント、全国より13.2ポイント上回った。

○「地域や社会をよくするために何かしたいと思いますか」の質問に対しての本校の肯定割合は86%と、県より7.5ポイント、全国より10.7ポイント上回った。

○「1、2年生のときに受けた授業で、PC・タブレットなどのICT機器を、どの程度使用しましたか」の質問に対して、「ほぼ毎日」と解答した本校の割合は67.6%で、県より22.6ポイント、全国より14.4ポイントも上回った。

○上の質問の結果を受けてか、「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器で文章を作成することができますか」という質問に対しての本校の肯定割合は92.7%、「あなたは自分がPC・タブレットなどのICT機器を使って情報を整理することができますか」の質問に対しての本校の肯定割合は79.4%と高く、前者は県より7.2ポイント、全国より9.1ポイント、後者は県より12.8ポイント、全国より16.1ポイント上回った。

○「1、2年生のときに受けた授業では、各教科などで学んだことを生かしながら、自分の考えをまとめる活動を行っていましたか」の質問に対しての本校の肯定割合は83.8%と、県より7.6ポイント、全国より13.2ポイント上回った。

○「学級の生徒との間で話し合う活動を通じて、自分の考えを深めたり、新たな考え方に気付いたりすることができていますか」の質問に対しての本校の肯定割合は92.8%と、県より5.3ポイント、全国より8.1ポイント上回った。

○「国語の勉強は好きですか」の質問に対しての本校の肯定割合は65.9%と、県より6.8ポイント、全国より8ポイント上回った。

○「国語の授業の内容はよくわかりますか」の質問に対しての本校の肯定割合は88.2%と、県より9.3ポイント、全国より11.2ポイント上回った。

○「数学の勉強は好きですか」の質問に対しての本校の肯定割合は62%と、県より10.1ポイント、全国より8.2ポイント上回った。

○「数学の授業の内容はよくわかりますか」の質問に対しての本校の肯定割合は78.2%と、県より7.2ポイント、全国より7.9ポイント上回った。

○「理科の勉強は好きですか」の質問に対しての本校の肯定割合は79.3%と、県より11ポイント、全国より15.5ポイント上回った。

○「理科の授業の内容はよくわかりますか」の質問に対しての本校の肯定割合は89.9%と、県より13.5ポイント、全国より18.5ポイント上回った。

宇都宮市立豊郷中学校（第3学年）
学力向上に向けた学校全体での取組

★学校全体で、重点を置いて取り組んでいること

重点的な取組	取組の具体的な内容	取組に関わる調査結果
「主体的・対話的で深い学び」の実現に向けて次の目標を目指す。 ・言語活動を通し、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を図る。 ・学力向上を目指し家庭及び地域・学校と連携した「豊郷の豊かな学び」の実現を目指す。	①指導目標を明確にし、指導内容の充実にも努める。 ・評価計画の見直し、指導と評価の一体化についての評価の研究推進 ・授業開始時の「学習課題」の掲示および授業終末時のまとめ・振り返りの工夫 ②主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善に努める。 ・学習形態・学習過程・学習指導の工夫 ・「宇都宮モデル」(「はつきり！じっくり！すっきり！」)を活用した授業改善 ・1人1台端末を効果的に活用した授業の工夫 ③望ましい学習態度の育成に努める。 ・自ら学びに向かう力をはぐむための家庭学習の習慣化 ④「グローバル社会」に主体的に向き合う教育の推進に努める。 ⑤各教科・領域、家庭・地域との連携に努める。	①について、「学習した内容について、わかった点や、よくわからなかった点を見直し、次の学習につなげることができていますか」という質問への肯定的な回答の割合は82.1ポイントで、県平均を5.8ポイント、全国平均を8.7ポイント上回った。 ②について、「自分がICT機器を使って情報を整理することができますか」の質問への肯定的な回答の割合は79.4%で、県の平均を12.8ポイント、全国の平均を16.1ポイント上回った。 ③について、学校の授業時間以外に、普段、一日当たりどれくらいの時間、勉強するかを答えさせる質問において、3時間以上もしくは2時間以上、3時間より少ないと回答した割合は41.4%で、県の平均を11.9ポイント、全国の平均を10.6ポイント上回った。 ④について、「地域や社会をよくするために何かしてみたいと思いますか」という質問への肯定的な回答の割合は86%で、県平均を7.5ポイント、全国平均を10.7ポイント上回った。

★学校全体で、今後新たに重点を置いて取り組むこと

調査結果等に見られた課題	重点的な取組	取組の具体的な内容
【国語】ICTを利用しない「書くこと」に対する苦手意識がある生徒が多い。 【数学】図形の証明などにおいて、筋道を立て、自分の言葉で説明する力が不十分な生徒がいる。 【理科】実験・観察の結果から考察し、思考して答える力が不十分な生徒がいる。 【質問調査】自己肯定感が低い生徒がいる。	・言語活動を通し、問題を解決するために必要な思考力・判断力・表現力等の育成を図る。	・あらゆる授業において、ペアやグループで自分の言葉で考えを伝え合う活動を取り入れる。その後、自分の考えを文章に落とし込み、「書くこと」を活動のまとめに設定する。 ・あらゆる授業において、実際の生活に即した資料を用い、その資料から物事の特徴を捉えたり、比較・検討したりして、わかったことや考えたことを自分の言葉で話したり、書いたりする活動を取り入れる。 ・発表の際には、教員が積極的にそれぞれの意見を認め、称賛する雰囲気を作る。